

渡町台小学校 4年3組 総合的な学習の時間 小単元3 単元構想プラン

単元目標		渡町台校区の人を笑顔にするために、校区のお店を調べたり、渡町台お店マップを作成したりする活動を通して、地域には様々なお店があることや、そこに关わる人の工夫や思いがあることを知るとともに、自分と地域との繋がりに気づき、校区に関心を高めながら主体的に関わることができるようにする。		
観 点 目 標	観 点	知識・技能	思考・判断・表現等	学びに向かう力
	目 標	地域には様々なお店があることや、そこに关わる人の工夫や思いがあることを知る。	自分と地域との繋がりに気づく。	校区に関心を高めながら主体的に関わることができる。
児 童 に つ い て	児童の実態	・活用しやすいマップとはどのようなものか具体的にわかっていない。 ・絵や色を多用すればよいマップになると思っている。	・根拠に基づいた判断をすることが苦手である。	・自分の考えにこだわりすぎて、他者からの意見を十分に取り入れられない子もいる。
	指導の分析	・何を目立たせたいかについての指導ができていない。	・インタビューに行くお店を選択する際に、条件に沿ったお店かどうかを判断したものの、思考ツールを使うなどして客観的な根拠に基づき、多様な取捨選択をする指導が不十分である。	・子どもの主観を大切にすあまり、自分と異なる意見や考えがあることに気づかせる機会が不十分だった。
教材について		・目的に合った地図とは何かがわかる。 〔絵やイラストを入れること。〕 情報量が適切かどうか。	・「人・もの・こと」について、何度も調査に出かけることでたくさんの情報を収集したり、人と関わったりすることができる。 ・情報を取捨選択する機会が多いため、思考ツールを使って条件に沿ったものを選択する力を身に付けることができる。	・他者と比較して目的に合っているかを客観的に判断することができる。
指導について		・目的に合った地図とはどういうものを他者と比較して、吟味できるように様々なマップを用意しておく。 ・一旦できあがったものを評価したり、指摘してもらったりする場を設定する。	・どのようにすればよりよいマップになるのかを観点を明確にした上で、思考ルールなどを使って条件に沿った選択をするようにする。 ・根拠を集めるために何度も見学に行ける機会の設定をする。	・自分の考えと友達の考えを対比させたり、意見交流をしたりすることによって、アドバイスをもらう場の設定をする。
評 価 規 準	評価規準	渡町台校区には様々なお店があることを知り、そこに关わる人は思いや願いを持っていることを知る。 マップ作成を目的に合った方法で、調べたりまとめたりしている。 マップ作りを通して、渡町台校区に様々なお店があり、思いや願いを持って働いている人がいることへの理解は、探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	どのようなマップを作ると地域の方と観光客が喜ぶか、役に立つかについて考えている。 <b>よりよいマップを作るために友達にアドバイスをもらったり、もう一度お店を尋ねたりしてインタビューをしようという。</b> 自分がかいたマップが視点に沿ったものになっているのかを見直し、マップのかき方を工夫している。 友達のアドバイスや再調査によって、新たな情報を付け加えたり、削除したりしてマップをかいている。 条件や視点をもとにして、マップをかけたことを実感している。	マップ作りをするために地域の方や友達等と協働して探究活動に取り組んでいる。 マップ作りをする中で、自分と異なる意見や考えを知り、取り入れたり話し合ったりして課題解決に向けて取り組んでいる。 マップの作成や地域の方との交流を通して、自分たちの校区には素敵なお店がたくさんあり、これから行ってみたい、紹介していったりしたいと思う。
	子どもの姿	・「絵と文字を載せたらわかりやすいマップになったな。」 ・「たくさんの情報を書きすぎてもごちゃごちゃしてわかりにくいな。」	・「同じお店にインタビューしたけれど、〇〇さんとは違う紹介文になったな。観光客にはどちらのほうがわかりやすいかな。」 ・「〇〇の秘密を入れたいけれど、 の情報も入れたいからどれにするか迷うな。どっちの方が魅力的かな。」 ・「みんなで考えた視点に合うのは、〇〇だな。」	・「載せたい理由をはっきりさせるためにもう一度インタビューに行ってもっとよい地図にしたいな。」 ・「笑顔になってたくさんの方が来てくれるようなマップを作りたいな。」 ・「みんなの話を聞いてもう一度マップを作り直したいな。」

単元の目標	渡町台校区の人を笑顔にするために、校区のお店を調べたり、渡町台お店マップを作成したりする活動を通して地域には様々なお店があることや、そこに 関わる人の工夫や思いがあることを知るとともに、自分と地域の繋がりに気づき、校区に関心を高めながら主体的に関わることができる。		
単元名	単元の評価基準		
渡町台お店マップで、 地域の人を笑顔にしよう。	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
	<p>知識</p> <p>渡町台校区には様々なお店があることを知り、そこ に関わる人は思いや願いを持っていることを知る。</p> <p>技能</p> <p>地図づくりに必要な技能を目的に合った方法で、 調べたりまとめたりしている。</p> <p>探究的な学習のよさ</p> <p>マップ作りを通して、渡町台校区には様々なお店が あり、思いや願いを持って働いている人がいること の理解は、探究的に学習してきたことの成果である と気付いている。</p>	<p>課題の設定</p> <p>マップ作りの中での疑問や関心から課題設定し、 解決方法を考えている。</p> <p>情報の収集</p> <p>渡町台お店マップを作成するために、必要な情報 を調査する目的に応じた方法を選びながら収集し ている。</p> <p>整理・分析</p> <p>渡町台お店マップを作成するために、客観的な意 見を取り入れたり、視点に沿ったものになっている かを考えたりして根拠や理由を明確にし、多くの情 報から必要な情報を取捨選択している。</p> <p>まとめ・表現</p> <p>渡町台お店マップを作成するために、集めた情報 をもとに、相手や目的に応じてわかりやすくまとめ、 表現している。</p> <p>振り返り</p> <p>単元で学習したことを振り返り、次の課題に生かそ うとしている。</p>	<p>主体性・協働性</p> <p>マップ作りをするために地域の方と友達などと協 働して探究活動に取り組んでいる。</p> <p>自己理解・他者理解</p> <p>マップ作りをする中で、自分と異なる考えを知り、取 り入れたり、話し合ったりして課題解決に向けて取 り組んでいる。</p> <p>社会参画・将来展望</p> <p>マップの作成や地域の方との交流を通して、自分 たちの校区には、素敵なお店がたくさんあり、これ から行ってみたい、紹介していったりしたいと思う。</p>

--	--	--	--

## 1. 単元名

渡町台お店マップで、地域の人を笑顔にしよう。 小単元3「よりよいマップを作ろう」

## 2. 単元の目標

渡町台校区の人を笑顔にするために、校区のお店を調べたり、渡町台お店マップを作成したりする活動を通して、地域には様々なお店があることや、そこに関わる人の工夫や思いがあることを知るとともに、自分と地域との繋がりに気づき、校区に関心を高めながら主体的に関わることができるようにする。

## 3. 小単元3について

### 児童の実態

1学期当初、どの教科においても「学級全体の前で自分の気持ちを表現すること」に苦手意識を持っている子が多いと感じた。簡単な発問をしても、手を挙げて発言する児童は固定されており、4,5人程度だった。発表できないのにはおそらく、教師が多様な考えを取り入れたり、正答をよりよく理解するために誤答を生かしたりする場面が十分でなく、自分の意見に自信を持たせることができていなかったという理由があるのではないかと思う。総合的な学習の時間を始めるにあたって、どんな力をつけたいかを児童に尋ねると、児童自身も考える力、思いを文章や言葉にして表現する力、聞いたり発表したりする力をつけたいという願いを持っていることがわかった。

小単元2のインタビューに行くお店を選択する場面やインタビューしてきたことを交流する場面等では、友達の意見に対して「わかりました。」「同じです。」という共感的な反応が多いが、「でもこれって〇〇じゃない。」や「こうしてみた方がいいのではないかな。」というような物事を批判的に見て、建設的に発言することはまだ苦手な傾向があると感じた。また、理由や根拠に基づいた判断をする場の設定ができていなかったため、児童の主観の多い選択になってしまうことも多くあった。その原因として、思考ツールを使うなどして客観的な根拠に基づき、取捨選択をする指導が不十分であったことが考えられる。

冬休みの間に、これまでインタビューしてわかったことをもとに、自分の地区のマップをかいてくることを課題として出した。子どもたちのマップを見ると、初めてかくマップに戸惑いながらも、一生懸命かいたことが伝わってきた。しかし、内容はお店の説明が文章で長々と書かれているものや、お店の外観の絵だけのものなど、何を目立たせたいのかが、明確でないものが多く、目的意識や相手意識をしっかりと持たせられていないことも明らかになった。

### 教材について

渡町台お店マップを作成する活動には、実際に地域の方に関わる必要不可欠になる。地域のことだからこそ、子どもたちは自分の足で情報を集めたり、自分の耳で聞いたりしたいという願いが必然的に生まれてくる。実際に、調査活動をする中で地域の方の思いや工夫、優しさに触れることによって、インターネットだけの情報では、それが不十分であることを実感することができる教材である。また、必要に応じて、知りたいことがあればその都度何度も見学に行くこともできる。さらに、多くの情報を収集する手段について考えたり、情報を取捨選択したりする場面も多くあり、条件に沿った情報を選択する力を身に付けることができる。例えば、マップに載せるお店やその情報について、根拠をもとに選択したり、友達と相談して内容を吟味したりできる。

地区ごとに分かれた班活動を行うことで、班の中で協働して取り組まないといけない場面も必然的に生まれ、自分の意見と友達の意見を比較しながら考え、よりよりマップ作りに繋げることができる。

総合的な学習の時間を通して、児童が繰り返し探究する中でその楽しさを実感し、相手意識・目的意識を持って、主体的・協働的に取り組むことができる教材である。

### 指導について

これまで、地域の人を笑顔にするためには「どのようなマップにするか」や、「マップに載せるお店はどれにするか」等集めた情報を取捨選択して選定する場面が多くあったり、決める視点を設けてそれに沿うものかどうかで判断したりしてきたが、どうしてもそれぞれの主観が入ったものになってしまいがちであった。それは、児童が「便利なのは、交通安全マップだけど、お店マップの方が絶対笑顔になるよね。」や「このお店は絶対マップに入れたい。お店の方も親切で優しくたくさん工夫があった。食べてみたらすごくおいしかったよ。」というような思いを重視したためであった。しかし、それだけでは目的に合ったマップにするためにはならない。そこで、これからの小単元3では、実際にマップを作成する活動の中で、これまで集めた情報に基づき、地域の魅力を十分に伝えられ、誰にとっても使いやすいという目的に照らし、自分や友達の考えを出し合い、比較したり、関連付けたりしながら、よりよいものにしていく活動に重点をおいて取り組みたい。その際、客観的な根拠に基づき、考えられるよう思考ツール等効果的に活用していきたい。

### 小単元3の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
<p><b>知識</b> 渡町台校区には様々なお店があることを知り、そこに关わる人は思いや願いを持っていることを知る。</p> <p><b>技能</b> マップ作成を目的に合った方法で、調べたりまとめたりしている。</p> <p><b>探究的な学習のよさ</b> マップ作りを通して、渡町台校区に様々なお店があり、思いや願いをを持って働いている人がいることへの理解は、探究的に学習してきたことへの成果であると気付いている。</p>	<p><b>課題の設定</b> どのようなマップを作ると地域の方と観光客が喜ぶか、役に立つかについて考えている。</p> <p><b>情報の収集</b> よりよいマップを作るために友達にアドバイスをもらったり、もう一度お店を尋ねてインタビューをしたりしている。</p> <p><b>整理・分析</b> 自分がかいたマップが視点に沿ったものになっているのかを見直し、マップのかき方を工夫したりしている。</p> <p><b>まとめ・表現</b> 友達のアドバイスや再調査によって、新たな情報を付け加えたり、削除したりしてマップをかいている。</p> <p><b>振り返り</b> 条件や視点をもとにして、マップをかけたことを実感している。</p>	<p><b>主体性・協働性</b> マップ作りをするために地域の方や友達等と協働して探究活動に取り組んでいる。</p> <p><b>自己理解・他者理解</b> マップ作りをする中で、自分と異なる意見や考えを知り、取り入れたり、話し合ったりして課題解決に向けて取り組んでいる。</p> <p><b>社会参画・将来展望</b> マップの作成や地域の方との交流を通して、自分たちの校区には、素敵なお店がたくさんあり、これから行ってみたい、紹介していったりしたいと思う。</p>

活動計画

時	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1	<p>○冬休みの間に、インタビューした内容をもとに、マップを作成する。</p>				
2 ~ 8	<p>○3学期の始めに、自分たちが作成したマップを友達同士で見合い、どのようなマップを作成したかや困りを出し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マップを作成するのは、むずかしかったな。どんな大きさで書けばいいかわからなかった。</li> <li>・絵を描くスペースがないからうまくいかなかったな。</li> <li>・お店の名前を書くだけで何の特徴もわからないな。</li> <li>・〇〇さんみたいに、絵と文をかけばよかったな。やり直したいな。</li> </ul> </div> <p>○困りをもとに、マップを作成するためにどのような手順を進めていけばよいかについて考え、見通しを持つ。</p> <p>手順 校長先生に教えてもらった方法で校区ごとに分けた道をか く。 2. 作成しなおしたマップの元にお店の紹介する言葉や絵 をかき入れる。 友達とアドバイスをし合って、よりよいものにしていく。 アドバイスを受けて、清書する。</p> <p>○マップの元になる道をかき直す。</p> <p>○作成したマップの元にお店を紹介する言葉や絵をかき入れ る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>どのようなマップを作ると地域の方と観光客の役に立ち、 喜んでくれるのか。【課題の設定】</p> </div> <p>○よりよいマップにするために、蔵前マップや様々なマップを見 て、視点を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>〔1 何のお店か、パッと見て分かるイラスト</li> <li>〔2 行ってみたいくなるキャッチコピー</li> <li>〔歴史</li> <li>〔ひみつ</li> <li>〔リズム</li> <li>〔びっくり</li> </ul>				<p>・行動観察</p> <p>・行動観察</p> <p>・ノート</p> <p>・発言内容</p> <p>・行動観察</p> <p>・発言内容</p> <p>・ノート</p>

<p>9 } 1 0</p>	<p>○視点をもとにして、紹介する言葉や絵をかき入れる。</p> <p style="text-align: right;">本時</p> <p>よりよいマップを作るために、友達にアドバイスをもらったり、もう一度お店を尋ねて、インタビューしたりする。</p> <p>【情報の収集】</p> <p>・同じお店にインタビューしたけれど、〇〇さんとは違う紹介文になったな。観光客にとっては、どちらの方がわかりやすいかな。</p> <p>・みんなで考えた視点に合うのは、〇〇だな。</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動観察</li> <li>・ノート</li> <li>・マップ</li> </ul>
<p>1 1 } 1 6</p>	<p>○アドバイスし合ったことをもとに、マップをかき直す。</p> <p>自分がかいたマップが視点に沿ったものになっているかを見直し、マップのかき方を工夫する。【まとめ・表現】</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノート</li> <li>・マップ</li> </ul>
<p>1 7 } 2 1</p>	<p>○作成したマップをどのようにして地域の方や観光客に広めていくためにはどうすればよいかについて考える。</p> <p>・観光客は、佐伯駅から来ることが多いから、駅にマップを置かせてもらったらどうか。</p> <p>・マップに載せているお店に置いてもらったら、他のお店も行ってみたいよとなつてたくさんのお店の方が喜びそうだな。</p> <p>・マップに QR コードをつけていたら、使った人の感想が聞けて嬉しいな。</p> <p>今後の自分たちと地域との関わりについて、これまでの活動を振り返って、まとめる。【振り返り】</p> <p>・この地図で観光客が増えたらいいな。</p> <p>・私も実際にこの地図を使ってみたいな。</p> <p>・渡町台校区には、思いや工夫を持ったお店がたくさんあって素敵だな。これからたくさん行ってみたいな。</p> <p>・渡町台校区には、優しい親切な人が多かったから、これから地域の方と関わって生活していきたいな。</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノート</li> <li>・マップ</li> <li>・発言内容</li> <li>・ノート</li> </ul>

4 本時のねらい

本時のねらい	渡町台お店マップについて、学級で決めた2つの視点に沿って、友達とアドバイスし合う活動を通して、客観的な根拠に基づき、自分や友達の意見を比較したり、関連付けたりして、改善点を見つけることができるようにする。
評価規準	渡町台お店マップについて、客観的な根拠に基づき、自分と友達の意見を比較したり、関連付けたりして、改善点を見つけようとしている。
具体的な児童の姿	「これでいいのかなと自信がなかったけれど、アドバイスをもらって改善点がわかってよかった。」 「〇〇さんが言っていたように、町中華という言い方にすれば何のお店かわかるし、昔からあるお店だってことがわかるな。」 「イラストは私のものを使って、キャッチコピーは さんのものを合わせるといいね。」

時間(分)	児童の活動	○指導 ・留意点	評価
5	1 前時までの活動を振り返り、本時のめあてを確認する。	○前時の振り返りを確認して、本時のめあてを児童とともに立てる。	
	めあて 目的にあったマップにするための絵や言葉を考えよう。		
25	2 班で自分が作成したマップを見せてアドバイスし合う。	○視点に沿ってアドバイスし合う。 ・アドバイスするときに、視点に沿っているかどうかを判断材料にする。 ・アドバイスをし、個人のマップのレベルアップを図るのではなく、それぞれが持ち寄ったマップの良さを取り入れて班で1つを選んでいく。 視点 行ってみたくなるキャッチコピー 〔 歴史 ひみつ リズム びっくり 何のお店か、パッと見てわかるイラスト ・どうしてこのようにかいたのかについて自分で説明する。アドバイスする人は、 と の視点に沿って、どうしてそう考えたのかについても説明する。	



	<p>3 全体でアドバイスし合ったことを紹介する。</p> <p>4 本時の振り返りをする。</p>	<p>○班でアドバイスしてもらったことを全体で紹介するとともに、他の班の人からもアドバイスをもらうようにする。</p> <p>○本時の振り返りをさせる。</p> <p>・次時はどうしたいか、どんなことに気を付けて改善していくかなどの視点で振り返るように伝える。</p>	<p>渡町台お店マップについて、客観的な根拠に基づき、自分と友達の意見を比較したり、関連付けたりして、改善点を見つけようとしている。</p>
--	--	--	--